

自問清掃の取組

18日（木）に、自問清掃の取組についての全校集会を行いました。中央委員会の子ども達が、自問清掃のねらいや方法について劇を交えながら説明しました。小学校で子ども達に話をする時に悩むのは、発達段階の差が大きい子ども達にどのように伝えるか、ということです。今回の中央委員の子ども達は、劇を交えることで、1・2年生の低学年の子ども達にもわかるように工夫をしました。効果はてきめんでした。どの子たちもよく話を聞いて、劇に見入っていました。中央委員の子ども達が話した久保台小の自問清掃の取組は、以下のとおりです。

自問清掃にしっかりと取り組むことで、自分自身を成長させることができます。自問清掃では、「自分で考えて判断する力」、「周囲の様子に気付く力」が身に付きます。また、「我慢する力」、「感謝の心」、「正直な心」が育ちます。自問清掃中は、声を出すことはしません。友達に話しかけたり、アイコンタクトとったりすることもしません。自問清掃中に、気持ちが落ち着かなくなることがあった時は、まずは気持ちを落ち着かせ、気持ちが落ち着いたら清掃を始めましょう。清掃の終わりの音楽になったら、片付けをして感想会を始めます。感想会では、自問清掃を通して自分が感じたことや、考えたことを発表し合うようにしましょう。感想会が終わったら、教室へ戻ります。

集会が終わったから、私は説明をしてくれた中央委員の6年生から、今年の自問清掃への取組の思いを聞きました。

自問清掃を通して、「学び合う心」を育ててほしいと思います。学び合うとは、「教え合うこととは違って、相手の気持ちを考えて、相手から学ぶこと」だと思います。「自問清掃」と「単なる清掃」との違いは、自分自身に問うことです。例えば、もし、話したりふざけたりしてしまったら、座って、静かになぜ自分はそのようなことをしてしまったのかを自分に問いかけます。それから、清掃に戻り、同じことをしないようにします。

